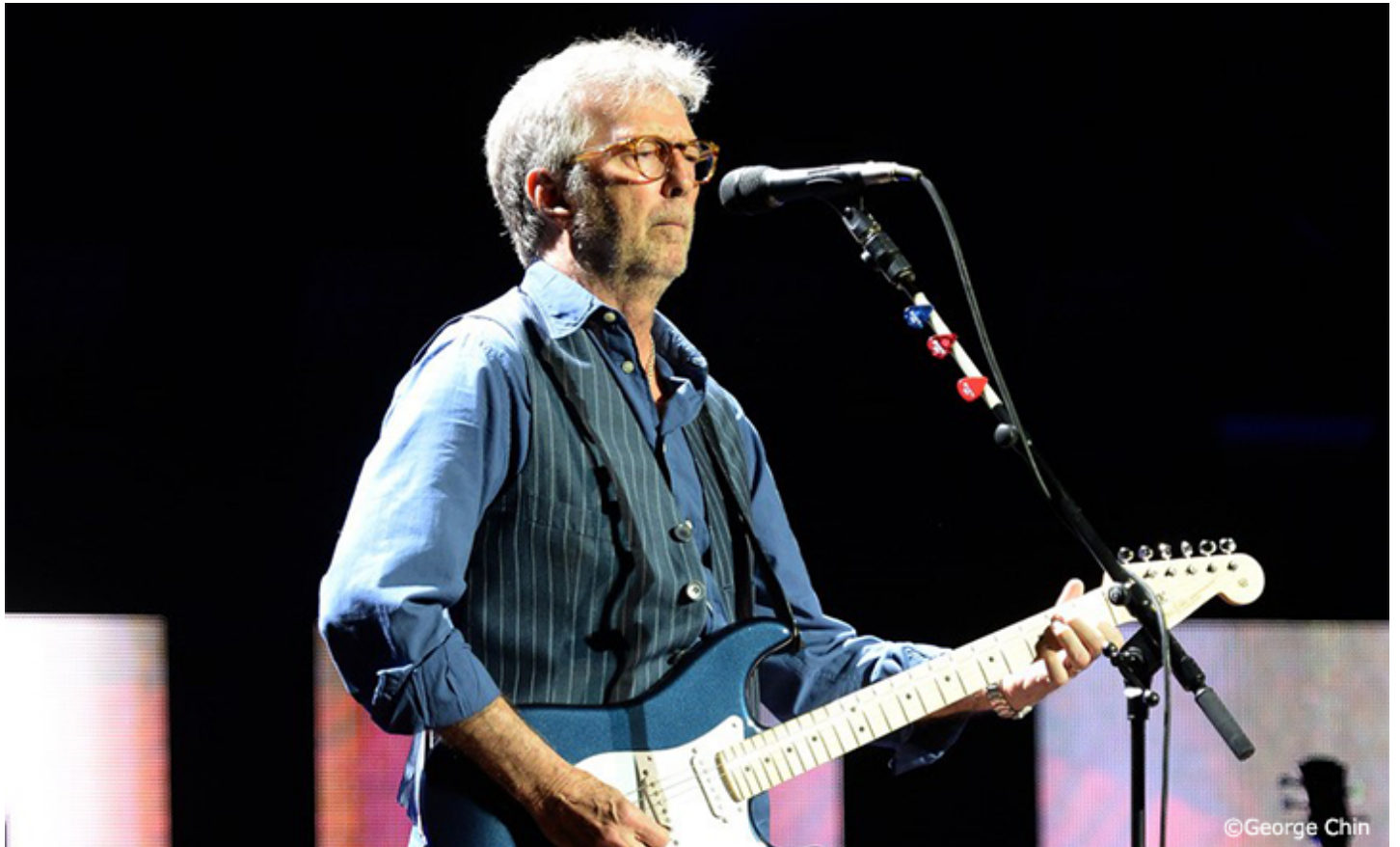


音楽があると人生は楽しい。

# Web音遊人 みゅーじん



©George Chin

## 2019年4月、エリック・クラプトン来日。アメリカからイギリス、そして日本に流れ込むブルースの潮流

5048views 2019.3.6

tagged : [エリック・クラプトン](#)



エリック・クラプトンが2019年4月、来日公演を行う。

“LIVE at BUDOKAN 2019”と題された今回の来日はタイトル通り、4月13日（土）から20日（土）にかけて東京・日本武道館で全5公演を行うというものだ。1945年3月30日生まれのクラプトンは公演時には74歳。古希と喜寿の狭間にある大ベテランであり、前回、2016年4月の来日時には「これが見納めとなるのでは……？」とファンを心配させたが、ちょうど3年ぶりに日本に戻ってくることになった。

さすがに近年のツアー日程は絞りぎみとなっている彼だが、前回同様、今回も武道館5回公演。2018年10月、ニューヨークのマディソン・スクエア・ガーデンの2回、2019年5月、ロンドンのロイヤル・アルバート・ホールの3回という公演数を上回る。そんなあたりからも、クラプトンの日本のファンへの特別な想いが伝わってくる。

1974年10月に初来日公演を行ってから、日本で200回以上のライブを行ってきたクラプトンだが、それ以外に“お忍び”でも訪れてきた。総合格闘技イベント“PRIDE”の観客席にいるのをスクリーンに映し出されて、場内を騒然とさせたこともある。

日本のファンにとっても、クラプトンは特別な存在だ。ブルースを基調とする音楽性のアーティストでは4月にジョン・メイヤー、6月にテデスキ・トラックス・バンドが来日公演を行う。どちらも日本で絶大な人気を誇るが、武道館5回という公演回数からしても、やはりクラプトンは“別格”だ。

20世紀初頭にアメリカ黒人の中で生まれたブルース音楽を現代に伝える代表アーティストがクラプトンだといえるだろう。ただ興味深いのは、ブルースのアンバサダーである彼がアメリカでなくイギリス出身だということである。

イギリスにおいて、ブルースは独自の進化を遂げてきた。一足先、1930年代初めにジャズ・ブームが起こり、数多くのアメリカ人ミュージシャンが訪英したため、イギリス人ミュージシャンの仕事が奪われるという、音楽家労働組合からのクレームがあった。彼らの主張が通って、1935年にはビザの発給条件が厳しくなり、“本



場”のジャズ・ミュージシャンのライブ演奏を聴くことが困難になった。そんな規制は音楽ジャンルを問わず行われたため、ブルース・ミュージシャンにも当てはめられた。

それが関係したのかしなかったのか、レッド・ベリーは1949年にヨーロッパを訪れ、フランスで公演を行っているが、イギリスのステージに立つことはなかった。

ただ、この規制には“抜け道”があった。アコースティック・ギター弾き語りのフォーク・ブルースマンは“ミュージシャン”でなく“芸人 variety artist”と分類されたため、問題なくライブを行うことができたのだ。1950年7月にジョシュ・ホワイトが訪英、数回ライブを行っており、好評を得て翌1951年2月には全英縦断28回の公演を行っている。

さらに1951年9月にはビッグ・ビル・ブルーンジーが初渡英。洗練されたホワイトと比べて生々しい“ど”ブルースの彼は熱狂的に受け入れられ、1953年・1955年・1957年にも英国ツアーを行った。

ロニー・ジョンソンも1952年7月にイギリス公演を行っているが、バラード中心の選曲があまり受けなかったと報じられている。なお、このとき前座を務めたトニー・ドネガン・ジャズ・バンドのリーダー、トニー・ドネガンはロニーにちなんでロニー・ドネガンと名乗り、レッド・ベリーのカバー「ロック・アイランド・ライン」のヒットでイギリス全土にスキッフル・ブームを巻き起こす。そんな若手スキッフル・バンドのひとつ、ザ・クォリメンが発展して結成されたのがザ・ビートルズである。

1950年代後半以降、ブルースにエレクトリック楽器が使われることが多くなった。1957年のシスター・ロゼッタ・サープ、1958年のサニー・テリー&ブラウニー・マギー、マディ・ウォーターズらの公演はエレクトリック・バンド編成で行われた。



動組合による規制とブルースの電化/バンド化は、独自の進化をイギリスのブルースにもたらすことになる。“ブリティッシュ・ブルースの父”と呼ばれるクリス・

バーバーは自らがミュージシャンだったのと同時に、プロモーターとしてアメリカのブルースメンを招聘。バックにイギリス出身の若手ミュージシャンをあてがったのである。1963年12月に訪英したサニー・ボーイ・ウィリアムソンのバックを務めたのが、若き日のクラプトンを擁するヤードバーズだった。

ヤードバーズの花形ギタリストとなったクラプトンだが、バンドのポップ化を嫌って脱退。シрил・デイヴィスやアレクシス・コーナーと共にブリティッシュ・ブルースの礎を築いたジョン・メイオールと合流する。メイオールのアルバム『ブルースブレイカーズ・ウィズ・エリック・クラプトン』（1966）は全英ヒット・チャートの10位となり、1960年代後半のブリティッシュ・ブルース・ブームへの起爆剤となった。

その後、クラプトンはクリームのハード・ロック、デレク&ザ・ドミノズのアメリカ南部志向、『MTVアンプラグド』でのアコースティック路線などを経ながら、常にブルースに根差した活動を行ってきた。

日本のミュージシャンも、クラプトンから多大な影響を受けてきた。ブルース・クリエイション（後にクリエイションと改名）のアルバム『ブルース・クリエイション』（1969）にはアメリカ黒人ブルースのカヴァーが収録されているが、いずれもクラプトンなど白人ブルースを経由した“孫カヴァー”である。

アメリカからイギリスへと流れ込んだブルースの潮流は、日本にも繋がってきた。2019年4月の来日公演は、クラプトンの半世紀にわたるブルースの旅路の集大成となる。

## ■ ツアーインフォメーション

『ERIC CLAPTON LIVE at BUDOKAN 2019』

4月13日（土） 18:00開演（17:00開場）

4月15日（月） / 17日（水） / 18日（木） 19:00開演（18:00開場）

4月20日（土） 17:00開演（16:00開場）



場所：日本武道館

料金：S席15,000円 / A席14,000円 (税込)

▶ 詳細はこちら

山崎智之〔やまざき・ともゆき〕

1970年、東京生まれの音楽ライター。ベルギー、オランダ、チェコスロバキア（当時）、イギリスで育つ。早稲田大学政治経済学部政治学科卒業後、一般企業勤務を経て、1994年に音楽ライターに。ミュージシャンを中心に850以上のインタビューを行い、雑誌や書籍、CDライナーノーツなどで執筆活動を行う。『ロックで学ぶ世界史』『ダークサイド・オブ・ロック』『激重轟音メタル・ディスク・ガイド』『ロック・ムービー・クロニクル』などを総監修・執筆。实用英検第1級、TOEIC 945点取得

[ブログ／インタビューリスト](#)

文 / 山崎智之

tagged : [エリック・クラブトン](#)



ヤマハ音遊人 (みゅーじん) Facebook

Web音遊人の更新情報などをお知らせします。ぜひ「いいね！」をお願いします！



MENU

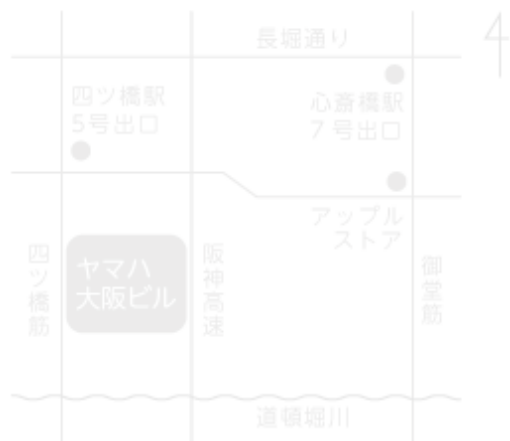
記事検索



「音楽ライター的眼」の  
記事をもっと見る

## ニュースの人気記事TOP3

### ヤマハ大阪ビル



1

ニュース

西日本最大級のヤマハの拠点「ヤマハ大阪ビル」

MENU

## ヤマハミュージック札幌店

札幌駅南口より徒歩5分  
六花亭札幌本店3F・4Fに新装オープン！



2

ニュース

北海道の音楽の拠点、ヤマハミュージック札幌店が新装オープン！



MENU

3

ニュース

ピアノの巨匠、リヒテルが東京・上野に甦る！？人工知能と人間が奏でるコンサートを開催



殿堂入り記事

編集部おすすめ記事



レビュー

伊豆の4か所にLovePianoが集結！「Izukoイースト」を使ってLovePianoを楽しもう

1279views







楽器・オーディオ

初心者必見！トランペットをうまく鳴らすコツと練習方法

952views



楽器・オーディオ

耳への負担を抑えるヤマハの独自技術「リスニングケア」を搭載したワイヤレスイヤホン5モデ

12281views

## 特集



### 今月の音遊人

今月の音遊人：岩崎宏美さん「中学生のころ、マイケル・ジャクソンと結婚したいと思っていたんですよ」



### 音楽ライター之眼

ナイン・インチ・ネイルズ漬けの2018年夏。サマーソニック/ソニックマニア出演&新作アルバム『バッド・ウィッチ』

5274views



### 楽器探訪 Anothertake

コンパクトなボディに優れた操作性が溶け込んだデザイン

2081views



### 楽器のあれこれQ&A

初心者におすすめのエレキギターと知っておきたい練習のコツ

6270views

### 注目のピアノデュオ 鍵盤男子の二人が チェロに挑戦！



### おとなの楽器練習記

おとなの楽器練習記：注目のピアノデュオ鍵盤男子の二人がチェロに挑戦！

2591views



### オトノ仕事人

見えないところこそ気を付けて心を配る／弦楽器の調整や修理をする職人  
(後編)

5160views



### ホール自慢を聞きましょう

クラシック音楽の殿堂として憧れのホールであり続ける／サントリーホール大ホール

11978views



### 子どもと楽しむMusicナビ

サービス精神いっぱいの手作りフェスティバル／日本フィル 春休みオーケストラ探検「みる・きく・さわる オーケストラ！」

3060views



### 楽器博物館探訪

16～19世紀を代表する名器の音色が生演奏で聴ける！

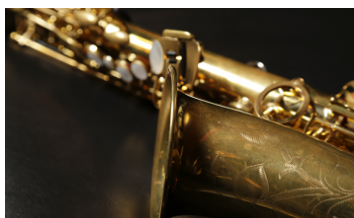
6270views



### われら音遊人

われら音遊人：ママ友同士で結成し、はや30年！音楽の楽しさをわかちあう

1611views



### パイドパイパー・ダイアリー

もしもあの日、バイオリンを習っていたら

2402views



### 音楽めぐり紀行

ポロネーズに始まりマズルカに終わる、ショパンの誇り高き精神をめぐるポーランドの旅

14568views

## 音遊人 2020 Spring

音楽で、育つ!

### 音楽情報誌「音遊人」

最新号

### 音遊人とは

[ホーム](#) > [Web音遊人](#) > 2019年4月、エリック・クラブトン来日。アメリカからイギリス、そして日本に流れ込むブルースの潮流





製品情報



ピアノ・電子ピアノ



エレクトーン・キーボード



管楽器・吹奏楽器



ギター・ベース・アンプ



ドラム



弦楽器



MENU

[マーチング楽器](#) >[コンサートパーカッション](#) >[学校用楽器・機器](#) >[ホームシアター・オーディオ](#) >[シンセサイザー・音楽制作](#) >[プロオーディオ](#) >[防音室（アビテックス）・調音パネル](#) >[取り扱いブランド](#) >[アプリ](#) >[ネットワーク機器](#) >[ゴルフ](#) >[その他の製品](#) >[教室・レッスン](#) [教室・レッスントップ](#) >[サービス](#) [ヤマハ銀座ビル](#) >[楽器・防音室レンタル](#) >[音楽の街づくりプロジェクト](#) >[ヤマハミュージックメンバーズ](#) >

MENU

[フィーリングクラブ](#) >[ヤマハの楽器体験イベント TOUCH & TRY](#)

[即レコ](#)[ピアノ工場見学](#)[イノベーションロード](#)[会員制サービス](#)[オンラインショップ](#)[学校指導者支援](#)[新着情報](#)[新着情報トップ](#)[読み物・SNS](#)[Web音遊人](#)[楽器解体全書](#)[文化放送ラジオ「楽器楽園〜ガキバラ〜」内コーナー「みゆ〜ぱら」アーカイヴ](#)[動画](#)[Twitter](#)[Facebook](#)[Instagram](#)[ブログ](#)[サポート](#)[よくあるお問い合わせ\(Q&A\)](#)

MENU

[お問い合わせ](#)

[修理相談](#) >

[店舗検索](#) ≡

[店舗検索トップ](#) >

[ヤマハについて](#) ≡

[ヤマハ株式会社](#) >

[株式会社ヤマハミュージックジャパン](#) >

[Global Site](#) | [日本](#)

[お問い合わせ](#) [このサイトについて](#)

[個人情報保護方針](#)

Copyrightc Yamaha Music Japan Co., Ltd. and Yamaha Corporation. All rights reserved.

